第２回　新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会

日時：平成 30 年７月 11 日（水）15：00～
場所：神戸市役所４号館１階　本部員会議室

議　事　次　第

１．開　会

２．検討委員会（委員の紹介）

「新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会　委員名簿」　（資料１）
「第２回　新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会　座席表」　（資料２）

３．報告等

「欧州視察について」　（資料３）
「第１回ワーキングについて」　（資料４）
「意見募集の結果について」　（資料５）
「利用団体ヒアリングの結果について」

４．議　事

基本計画（素案）について　（資料６）

５．その他

６．閉会

資料１

新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会委員

（１）整備基本計画検討委員会

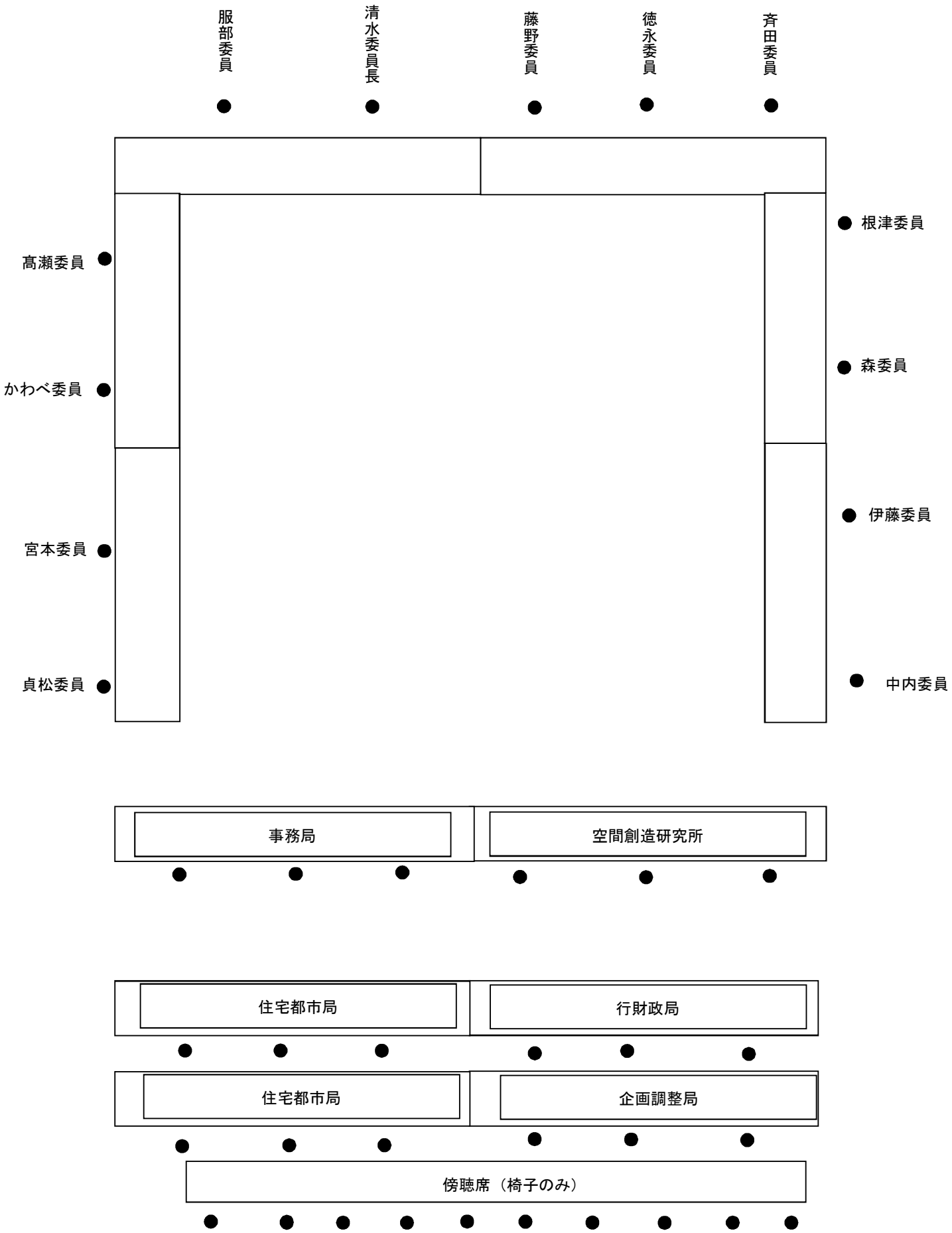
	委員	所属・役職	備考
芸術家・芸術文化団体関係者	貞松　正一郎	（一社）貞松・浜田バレエ団 理事・芸術監督	洋舞分野 日本バレエ団連盟理事
	服部　孝司	神戸市民文化振興財団理事長	現神戸文化ホール指定管理者 神戸市室内合奏団、神戸市混声合唱団
	宮本　慶子	兵庫県音楽活動推進会議代表 神戸マリンバソサエティ主宰	器楽(洋楽・クラシック)分野 神戸芸術文化会議舞台芸術部会長
	森　もりこ	劇団自由人会代表 兵庫県劇団協議会代表	演劇分野 神戸文化ホール検討会議メンバー
学識経験者等	斉田　好男	神戸大学名誉教授 関西合唱連盟理事長	指揮、オペラ・管弦楽・吹奏楽分野
	清水　裕之	名古屋大学名誉教授 文化経済学会元理事長	ホール空間計画分野
	徳永　高志	アート NPO カコア理事長 慶應大学文学研究科非常勤講師	ホール運営分野 H28 年度文化ホールあり方検討外部委員
	根津　昌彦	（合）ゼンクリエイト代表 兵庫県合唱連盟理事	まちづくり・賑わい分野 三宮中央通りまちづくり協議会コンサルタント 三宮クロススクエア WS ファシリテータ
	藤野　一夫	神戸大学大学院 国際文化学研究科教授	文化政策分野
経済界	伊藤　紀美子	田嶋㈱ 代表取締役社長	神戸商工会議所副会頭
	中内　仁	㈱神戸ポートピアホテル 代表取締役社長	経済同友会副代表幹事 MICE 担当
議会	髙瀬　勝也	神戸市会議員	文教こども委員会委員長
	かわべ　宣宏	神戸市会議員	文教こども委員会副委員長

（２）テクニカルアドバイザー

豊田　泰久（音響設計家、㈱永田音響設計ロサンゼルス事務所・パリ事務所代表）

資料２

第２回　新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会　座席表



資料3

ヨーロッパ視察コンサートホール　参考資料

施設名称	所在地	設置者	運営者	開館年	施設構成（単/複合）	施設概要				
						ホール客席規模				その他
						ホール1	ホール2	ホール3	ホール4	
Wiener Musikverein	オーストリア・ウィーン	協会	Die Gesellschaft der Musikfreunde in Wien	1870	複合施設（資料館、ショールーム等）	2,100	400（立見席50含む）	126	70	
Wiener Konzerthaus	オーストリア・ウィーン	民間	ウィーン・コンツェルトハウス協会	1913	単体施設	1,865	704	366	100	
Elbphilharmonie	ドイツ・ハンブルク	市/州	HamburgMusik gGmbH – Elbphilharmonie und Laeiszhalle	2017	複合施設（ホテル、集合住宅、レストラン）	2,100	550（最大）	150（最大）	–	スタジオ、リハーサル室、レジデントオーケストラ専用スペース、ショップ　等
Laeiszhalle	ドイツ・ハンブルク	市/州	HamburgMusik gGmbH – Elbphilharmonie und Laeiszhalle	1908	単体施設	2,025	640	(150)	–	
Berlin Philharmonie	ドイツ・ベルリン	市/州	Berliner Philhamoniker Foundation	1963	単体施設	2,400	1200	–	–	
Pierre Boulez Saal（Barenboim-Said Akademi）	ドイツ・ベルリン	財団	Daniel Barenboim Stiftung Barenboim-Said Akademie gGmbH	2016	複合施設（教育施設）	682	–	–	–	練習室、セミナールーム、レコーディングスタジオ、カフェ（BAR）等
Philharmonie de Paris	フランス・パリ	国、市	Philharmonie de Paris / Cité de la Musique	2015	単体施設	2,400	–	–	–	リハーサル室（専有リハーサル室4室含む）、ギャラリー、練習室、スタジオ、楽器博物館、教室（教育施設）、ショップ、レストラン、カフェ、書店　等
RADIO FRANCE	フランス・パリ	国	Radio France	2014	複合施設（放送局）	1,461	840	–	–	スタジオ（リハーサル室）、レストラン　等

資料４

第１回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会 ワーキング
議事要旨

日時：平成 30 年６月 25 日（月曜） １０：００～１２：００
１３：００～１５：００
場所：中央区役所４階　会議室

中ホールについて

- （新文化ホール建設に関する疑問点と提言について）中ホールは音楽専用ホールが有力視されているが、音楽専用ではなく演劇も可能な多目的ホールとしていただきたい。
- 700 席規模であれば、1 階席 400 席、2 階席 300 などにし、1 階席のみでも利用できるよう配慮していただきたい。
  - 全国的に演劇鑑賞会は人数が少なくなってきている。今、若い人は小さな規模で距離が近いホールを好む傾向にある。今から 700～800 席規模のホールをつくり、将来的に維持していけるのか。
  - 都市文化政策の話になるが、演劇鑑賞会は東京から劇団を招聘し、地方公演を行うことを前提としている。戦後はそのようなことが求められたが、今は東京に依存せず、地域で作品創りを行うことが増えてきた。東京から招聘するためにホールが必要というのは時代にそぐわないのではないか。
  - 音楽と演劇では求められる音響性能がまったく異なる。技術的には音楽も演劇も満足する多目的ホールとすることは可能だが、手間も費用もかかる。また、「演劇に特化している」「音楽に特化している」などの特性に魅力を感じる方もいる。ブランディングも考えていかねばならない。
  - 1 階席と 2 階席で客席数に差をつけ、1 階席のみの利用を想定することは建築的には可能。ただし、可動壁でシャッターをつくり客席を区切るなどは、機構的に大変なわりに効果がない。それよりも、1 階席のみの利用料金を設けることのほうが重要だろう。
  - 前方客席を確保することで席数を可変させるなど、席数を変える手法は色々とある。
- 全国的に、どのまちでも中ホール、小ホールの需要が高いということは間違いがない。

区民ホールについて

- 区民ホールは区民のためのホールなので、大ホールと異なる利用ルールになると長期間の演劇などは利用しにくくなるのではないか。
- 全国的にも、公共ホールでミュージカルのロングラン公演を行う事例もでてきた。
- （事務局）民間も含め、他ホールとの棲み分けの問題でもある。ロングラン公演は民

間ホール（こくさいホールなど）向きだと思う。今の文化ホールは市民に多く利用されているので、長期独占は難しいのではないか。ただし、創造発信のためには 1 週間の利用が必要になるなどのご意見をいただければ、現状は5日間までの使用規定だが、検討させていただく。

- 大ホールと区民ホールがセットで運用できるように考えないと。（やはり中央区民が納得しないと「区民ホール」にはならない。）500 席程度なら、需要としては区民ホールを利用したいという人が一番多いだろう。基本計画でどう盛り込むかは難しいが、中央区民にも文化関係者にも納得してもらえるように考えていく必要がある。

ホールの組み合わせについて

- 建築的に一番すっきりするのは、「バスターミナルに多目的の大ホール、多目的の区民ホール、新 2 号館に音楽専用ホールを造る」という案である。ただし運用上は区民ホールを分離したほうがよい。そうなると、「バスターミナルに大ホール、音楽専用ホールに近い中ホール、新 2 号館に多目的の区民ホールを造る」有力なのはこの 2 つではないか。
- 市役所の跡地に多目的ホールを建設するのは敷地的に厳しい。音楽ホールにして舞台袖をなくせば入るだろう。配置の観点からみると、新 2 号館に音楽ホールを配置することが一番落ち着くのではないか。
- 区民ホールの運営ルールは追って検討するとして、区民ホールが多目的ホールとなるならば、音楽も演劇も利用できる。皆の意見を総合すると音楽は新 2 号館を使い、演劇は多目的の区民ホールを使うという形が、一番落ち着くのではないか。そのためには区民ホールは 700 席は欲しい。
- 新 2 号館のホールが機能的に音楽ホールになったとしても、音楽しか行わないというわけではないだろう。松方ホールは音楽専用ホールとして造られたが、実際には講演会や企業利用などもされている。あまり固定的に考えず、3 館を活用してニーズを満たして行けばいいのではないか。
- 音楽ホールを多目的に限りなく近づけるとした場合、その時点で「音楽ホール」というブランドはなくなる。基本的には、壁は可変になればなるほど音が悪くなる。都市文化政策として、そこはどう考えるか。
- 区民ホールは区民以外も利用する。実際はキャパシティ的に一番使われるホールになるだろう。大ホール、区民ホールが一体に使えるかなど、きちんと落とし込んでおかないと、ちぐはぐなものになってしまう。

その他のハード計画について

- 搬入経路は非常に重要であり、配慮する必要がある。
- 平面計画とあわせ、断面計画も検討していく必要がある。

- 舞台面の情報ネットワークを整えることも検討する必要がある、音響、照明、舞台が全部 LAN でつながり、それを貸館利用者に提供できるものとしていかねばならない。
- この 10 年の技術的な進歩はめざましく、これから先開館時にどこまで進歩しているかはわからない。フレキシブルに対応できるようにしておくしかない。

将来像について

- ホール規模などのハードの話もあるが、20 年、30 年後の神戸市の舞台芸術の状況がどうなっているか、あるいはどういう状況をつくりだしたいのか、どのような状況となっていることが最適なのかという議論をしていく必要がある。
- 新たに建てるホールだけではなく、神戸市全体のホール機能と運営の整理を、この機会に行うべき。区民ホールとの連携なども考えていく必要がある。
- 新しいホールがクリエイティブなことを行うほど、市民利用は区民ホールで受け止めるしかなくなる。区民ホールを充実させていくことも含め、今後数十年の展開を基本計画に示さないとならない。

運営面について

- 大ホールと区民ホールの 2 つのホールを一体利用する場合、利用申込みの際に「大ホールは 1 年前からだが、中ホールは半年前からでないと申込みができず、一体利用の申込みができない」などとならないように、ルールを検討する必要がある。
- 心配しているのは、大ホール、中ホールと区民ホールの条例が異なるだろう、ということである。
- （大ホールと区民ホールが併設される場合）2 つのホールの運営母体が異なると利用者は利用しにくく、マイナスイメージに繋がるだろう。
- 都市文化政策と市民文化政策は異なる。都市文化政策となると、この委員会の検討の範疇を超える、例えば、札幌市の札幌コンサートホール Kitara も、川崎市のミューザ川崎シンフォニーホールも、どちらも音楽のまちとして打ち出していくという、都市文化政策と連動している。それを行うには、知見と相当な資金が必要となる。
- 運営に関する費用は、市民が納得する形で支出しないと、後々大変なことになる。
- これまで神戸市がもっていたリソースを、どうやって都市文化政策に活かしていくかも、重要な点になる。新たなものを立ち上げるという前に、神戸にはプロフェッショナルな演奏団体が 2 つある。その活用策を考えるべき。もちろん、新たな劇団もダンスカンパニーもあるといいが、今から新たにつくるのは難しいだろう。
- 行政が全て事業費を出すということが難しい時代になっている。今からできるのはプロフェッショナルな市民がどれだけ事業制作に携われるかということ。財団が NPO のような組織と連携していくことを検討しなければならない。あるいは、そういった活

動をしているところに財界から資金の援助があり、年に 3～4 本公演ができるといったことがあるといい。市民と行政、専門家、財界が連動していくということを検討したほうがよい。

- 複合施設としての、総合的な運営上の視点を書き込む必要がある。
- 創造支援機能は柔軟に利用できるよう配慮する必要がある。例えば、大き目の練習場は小規模な発表の場としても利用できるなど、運用方法を考えることで人が集うことになる。

事業の方向性について

- 劇場法に記載されていて、あり方検討会の目指すべき姿の中で抜けているのが「実演芸術に対する調査研究資料の収集及び情報の提供」という部分である。
- 調査研究はこの施設だけで行わなくとも、市全体で位置づけられるのであれば良いと思う。
  - 調査研究は非常に重要だが、実際に行える人がいないと取り組めない。
  - 本格的な調査研究は大変だが、日常的に文化芸術に関する様々な情報があるだけでも管理は大変である。
- どの区民センターも似たような事業を行っており、地域の特性があまりない。それぞれの地域特性を区民センターで出せ、それを統括する文化ホールとなる。統括にはすべての区民センターの情報が集約されている、となるとよい。
- （事務局）例えば、複合施設内に図書館を設置することになるが、そこと連携していくことなども考えられるか。
  - その場合はホールのアーカイブ機能も図書館とシェアすることを提案する。
  - ただし、ホールのものではなく市全体の資料となる。加えて、ホールのアーカイブもその場所でできるとよい。

ホール間、まちとの連携について

- 商業等との連携について書かれているが、そもそも、大ホールと中ホールが別の場所に建設されているので、ホール間の連携を謳っていかねばならない。2 つのホールをつなぐ公共空間として「三宮クロススクエア」の整備が検討されているので、その場所がホールをつなぐ重要な場所となる。また、三宮クロススクエアを活用したフェスティバルなども仕掛けていく必要があるだろう。ホールのまちへの開かれ方を考える必要がある。
- 都市計画も含め、周辺とホールが一体化しているということを考える機会だと思う。民間のライブハウスなども含め、資源の活用を考えていかねばならない。
- 地元の芸術家たちとパートナーとなり、様々なイベントを企画したり、実現させていかねばならない。

資料５

市民意見募集結果

幅広く市民の意見を聴取するため、第１回　新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会後に、当日の資料や議事要旨を市ホームページや各区役所、区民センター等で閲覧できるようにして、市民からの意見を募集しました。

また、意見募集を行う旨を市ホームページや広報紙６月号に掲載して周知を図りました。

募集期間	平成 30 年６月 11 日（月曜）～６月 25 日（月曜）
提出方法	郵送、FAX、電子メールまたは持参
意見提出数	31 通

（１） 整備する場所について

（主な意見）

・早期に三宮で文化ホールの建設を望みます。（同一趣旨　ほか５件）

・三宮駅周辺に整備されれば、大ホール・中ホール・区民ホールを自由に行き来出来るような「サーキット型・三宮ミュージックフェスティバル」なるものが開催出来るのではないか、と考えました。近隣には神戸国際会館もあることですし、うまく連携させれば相当大きなイベントを開催可能なのではないか、と思います。

・三宮周辺地区に文化ホールが整備されると、その文化ホールをメイン会場とし、その他 2~300 キャパのライブハウスなどをサテライト会場とした、大規模な音楽のイベントの開催も可能となります。世界各地からの観光客の動員が見込めるような計画も立案できるのではないでしょうか。

・三宮での整備に大賛成です。交通至便なホールというのは、動員の大切な条件と思います。

・神戸市、兵庫県の中心として、三宮駅周辺の交通網はとても充実しています。

・何よりアクセスの良い場所での建設を望みます。

・神戸文化ホールが三宮という便利で、魅力的な場所に整備されるということは大変素晴らしいことです。

・場所は交通至便な所で。ウォーターフロントは不便すぎる。早期建設が望ましい。

・兵庫県立芸術文化センターの様に、大・中・小が同じ場所にあり、雨に濡れない立地で三宮駅前に早くつくっていただけることを望みます。

・文化芸術の中心である神戸文化ホール移転。１日も早く着工され、予定通りの年度に完成を強く願います。

・便利になるなら渋々賛成という気持ちです

・高齢化、利便性、天候／気象条件、公演／催し物前後の時間の使い方（食事・喫茶・買い物 etc）などを考えると、三宮が良いと思います。

・文化ホールの建替えについては、まだあと 20 年は使用できるのに、何故、今なのかが理解できません。まだ使える文化ホールを、建替えることには反対します。
・神戸文化ホールは移転せず、必要であれば現在の場所に建替えもしくは改修をすべきである。
（同一趣旨　ほか２件）
・交通量の多い三宮一極集中になると事故などの心配もあります。
・老朽化や震災での被害、バリアフリーへの配慮なら建替えは止むを得ないとしても、三宮再整備の一環としての大手ゼネコンや鉄道会社への利益誘導の建替えには反対。

（２） 機能・仕様について

（主な意見）

・大阪のフェスティバルホールのようにデザイン性の高いホールにして欲しい。
・新ホールもぜひ、専門家の俳優さんのアドバイスをもらい、演劇ホールとして作っていただいて、これからもお芝居を楽しみたいと思います
・ホールは多目的でなく音楽ホールにしてほしい、神戸市には音楽ホールが少なすぎる。
・低料金で上質の物をお客様に提供するには、市営でホール代を低価格で貸していただける事が重要です。
・今の中ホールの響きは素晴らしいと思います。それ以上の響きのよいホールにしてください。
・トイレや、会場までのアクセス、搬入口など工夫して下さい。ホール利用の抽選なども工夫していただきたいです。
・ホールに併設して練習室・音楽室・リハーサル室を充実させて整備して下さい。
・パイプオルガンの設置は不要。
・大ホールがプロセニアムを基本とする舞台、についてはとても良い思います。大賛成です。
・中ホールについては、ソロリサイタルや室内楽を身近に楽しんで頂ける、演奏者と聴衆が一体感を感じ取れる、良質な音響空間を大切にして頂ければ嬉しいです。
・強度、音響面から大／中ホールの反響版、ステージフロア（床板）の材質には十分な御配慮をお願いしたいです。
・スタインウェンのフルコンサートピアノを 2 台揃えてほしいです。
・2 号館付近に整備するホール（中ホール）は音楽専用にするなど、専門的な機能に特化する形で考えることもできるのではとなっていることについて、考え方としては賛成いたします。
・音響面に関して、外部の音や振動が舞台に伝わらないこと。
・楽屋などの施設（現在の大倉山のホールと同規模でお願いします。）
・リハーサル室は、新大ホール、新中ホールともに設けるようにお願いいたします。大きさは、それぞれの舞台と同じ大きさでお願いします。このリハーサル室は、ホール使用者が使用しないときは、外部に貸し出していただきたいと思います。
・ホール利用者用の駐車場を確保願います。
・大型楽器も運搬可能な大きめのエレベータの設置をお願います。
・開場前にお客様が並ばれる空間を風雨の影響がないようにして確保をお願いします。
・大倉山の文化ホールも現状と同様の独立した建物として建て替え、大倉山に利用者の多いク

ラシック音楽専用の大ホールと中ホールを、三宮のホール（大、中、区民）はクラシック音楽も可能な多目的とすることを提案いたします。

（３） 規模について

（主な意見）

・キャパとして 1,000 名前後のホールと、4～500 名のホールが使いやすく、主に発表の場として利用したいと考えております。

・大ホールの他、今までの中ホールよりは少し小さな 500 席くらいの小ホールが併設されれば最高です！

・200 人、300 人くらいのホールもぜひ作って頂きたいと思います。

・大ホール、中ホール、小ホールに加えて 200 人～300 人の規模のミニホールの配置を望みます。（ミニホールとは,地域住民がコンサート・演劇・ダンス・音楽発表会等を開催し得るグランドピアノが常設された舞台付きホールです。）

・新・神戸文化ホールは大ホール、中ホールとも、客席数は現在の大倉山にある神戸文化ホールと同じレベル（大ホール：2000 席以上、中ホール 900 席）としていただくようにお願いいたします。舞台の大きさも、大ホール、中ホールとも、現在と同じ大きさでお願いします。

・大ホールは、１階オールスタンディング、２階座席で合計５千～１万人が入れるくらいの箱にするのがいいと思います。

（４） その他について

（主な意見）

・地下鉄または、阪神・阪急・JR から地下道を使用して直接新文化ホールに行けるよう計画してください。

・高齢者・障害者の為のエレベーターを何箇所かに付けて下さい。

・跡地はこどもたちの公園にして頂けませんか。

・意見募集は何回もせず、これ一回にして欲しい。

・三宮に移るならば駅直結に

・駅周辺を文化ホールにふさわしく美しくできれば緑豊かに整備して下さい。

・仮に同一建物内に大・中ホールが併設される場合を想定した場合のメリットは、大道具、音響、照明、etc.のホールスタッフの行き来、相互協力がとりやすくなる。フルコン・ピアノの移動が可能。併せて譜面台、譜面灯、パイプ椅子、etc.など付帯設備の貸し借り、移動が容易に可能になる。基本構想を否定するような気持ちではありませんが、大／中ホールは同一建物内、同じ敷地内に建てられることが多いです。

資料６

新・神戸文化ホール整備基本計画（素案）

平成３０年７月
神戸市

目　次

１．新・神戸文化ホールの整備方針
（１） 基本計画の位置付け
（２） 新・神戸文化ホールが目指す機能・役割

２．事業の考え方
（１） 事業展開の基本方針
（２） 事業内容

３．管理運営の考え方
（１） 管理運営の基本方針
（２） 組織体制の基本方針
（３） 収支計画の考え方

４．施設計画
（１） 基本性能の整理
（２） 主たる機能諸室の検討・整理
（３） ゾーニングの考え方
（４） 留意事項

５．整備手法

６．整備スケジュール
（１） 整備予定地
（２） 整備スケジュールの整理

７．今後の検討課題

１．新・神戸文化ホールの整備方針

（１）　基本計画の位置付け

①基本計画の位置付け

神戸文化ホールは、神戸市の芸術文化の基幹施設として、昭和 48 年に開館（昭和 47 年竣工）し、今日に至るまで、市民をはじめとする多くの方に利用されている施設です。

しかし、施設や設備の老朽化が進み、神戸市の芸術文化を支える基幹施設として、これからの時代に求められる役割が十分に満たせない状況となっています。

そのため、将来を見据えた施設の見直しを図るため、平成 28 年度に神戸文化ホールのあり方について検討を行い、平成 29 年 3 月に「神戸文化ホールのあり方検討のまとめ」として取りまとめています。

そのまとめの中では、現・神戸文化ホールが抱える課題を解消し、これからの基幹施設として期待される役割を果たすためには、制約の大きい大規模改修（長寿命化）ではなく、建替を前提に検討する必要性があるとしています。

神戸文化ホールを、単に建物を建替えるだけでなく、今後の神戸市のまちづくりに大きく貢献する芸術文化の拠点として、新たな神戸文化ホールを整備することが望まれています。

この新・神戸文化ホール整備基本計画（以下、「基本計画」という。）は、新たな神戸文化ホールの整備における方針を示すものです。

②関連計画

■　三宮周辺地区の『再整備基本構想』（平成 27 年 9 月）

神戸の玄関口である三宮周辺地区については、民間活力の導入を図りながら、魅力的で風格ある都市空間を実現すべく、事業化を見据えたより具体的な検討を行い、三宮周辺地区の『再整備基本構想』を策定しています。

基本構想では、地域全体に求められる項目として、『都市間競争において、選ばれるための魅力・活力の創造』、『地区内及び周辺地域への回遊性向上』、『商業や業務、文化、交流機能の集積と更新』などが挙げられています。

その中で「美しき港町・神戸の玄関口”三宮”」として、まちづくりの５つの方針を定めています。

１	歩くことが楽しく巡りたくなるまちへ
２	誰にでもわかりやすい交通結節点へ
３	いつ来てもときめく出会いと発見を
４	人を惹きつけ心に残るまちへ
５	地域がまちを成長させる

新・神戸文化ホールは、このなかで定義されている「えき」と「まち」をつなぐ空間である「えき　まち空間」に整備を予定しており、『再整備基本構想』における方向性に十分に配慮した計画とする必要があります。

新・神戸文化ホールは、今後の神戸市の目指す都市像を実現させる施設として都市政策の中に位置付け、計画していくことが求められます。

（２）　新・神戸文化ホールが目指す機能・役割

前述の「神戸文化ホールのあり方検討のまとめ」において、公の施設である新・神戸文化ホールが目指す機能・役割は、2012 年（平成 24 年）に施行された「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（以下、「劇場法」という。)」も踏まえて、以下のように整理されています。

①　市民の誇りとなる、神戸らしい芸術文化の発信
②　市民主体の芸術文化活動の促進、更なる高度化の支援
③　芸術文化を担う創造的人材の育成
④　多様な人材が交流し、まちのにぎわいを生み出す空間と経済波及効果の創出
⑤　神戸の個性を発揮することによる「選ばれるまち」の実現
⑥　芸術文化の普及啓発拠点として誰もが芸術文化に触れる機会を提供

２．事業の考え方

（１）　事業展開の基本方針

新・神戸文化ホールが目指す役割を実現させるために、積極的な事業及び活動を実践していくことが求められます。

特に、前述の新神戸文化ホールが目指す機能・役割では、劇場法を踏まえた検討が行われており、その第３条に定義されている事業について十分に考慮したものとします。

【参考】劇場、音楽堂等の活性化に関する法律

（劇場、音楽堂等の事業）

第３条　劇場、音楽堂等の事業は、おおむね次に掲げるものとする。

１　実演芸術の公演を企画し、又は行うこと。

２　実演芸術の公演又は発表を行う者の利用に供すること。

３　実演芸術に関する普及啓発を行うこと。

４　他の劇場、音楽堂等その他の関係機関等と連携した取組を行うこと。

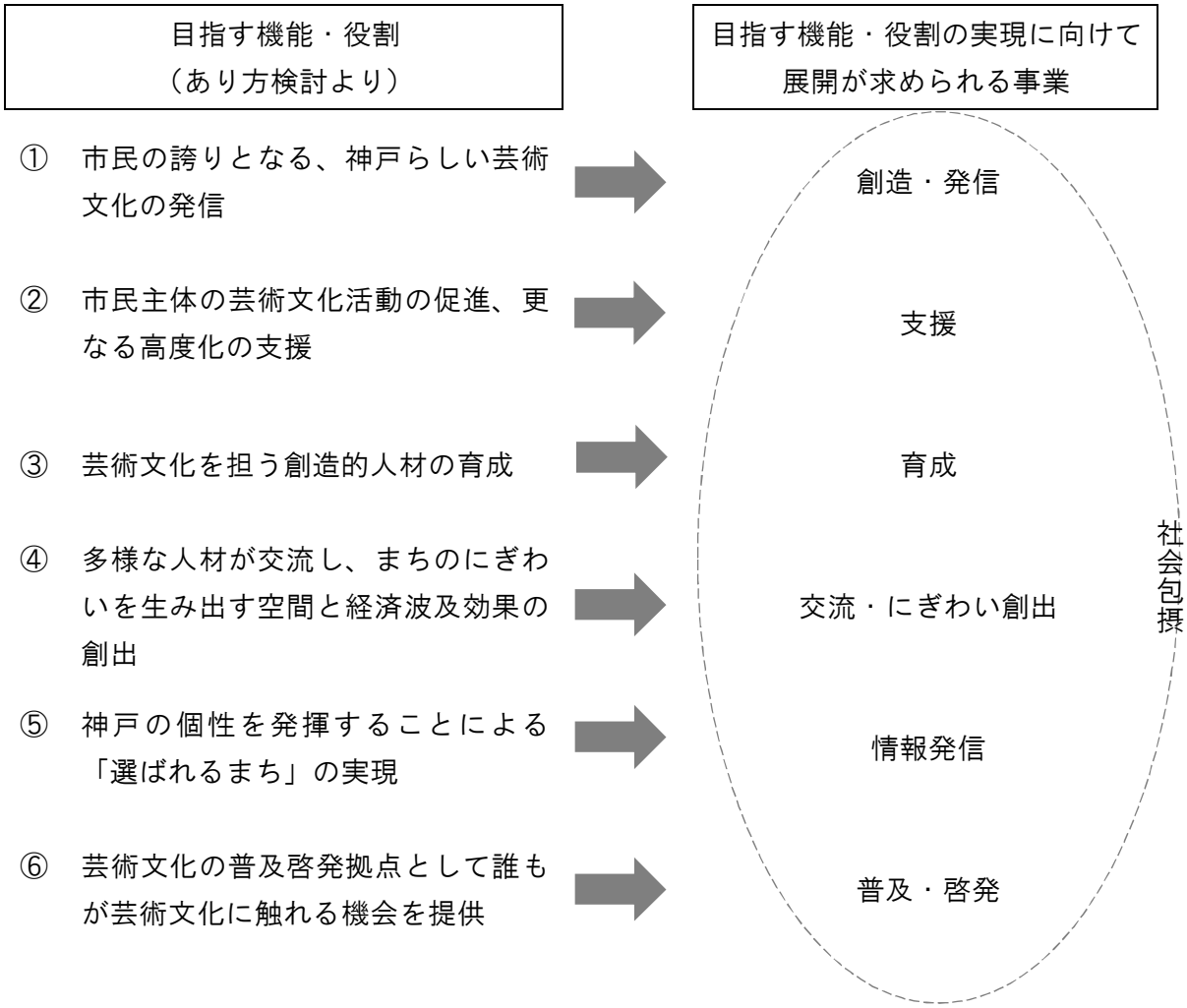
５　実演芸術に係る国際的な交流を行うこと。

６　実演芸術に関する調査研究、資料の収集及び情報の提供を行うこと。

７　前各号に掲げる事業の実施に必要な人材の養成を行うこと。

８　前各号に掲げるもののほか、地域社会の絆の維持及び強化を図るとともに、共生社会の実現に資するための事業を行うこと。

（２）　事業内容



以上を踏まえて「具体的事業展開」の考え方を整理します。

【事業展開の考え方】

創造・発信 【鑑賞】	神戸らしい芸術文化作品の創造と発信を通じて、神戸の魅力を高めていく ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団による発信。 ・ 音楽・演劇・舞踊・伝統芸能のみならず、映像・AI 等幅の広い分野の協働・参画による創造的舞台芸術の企画・実施 ・ 神戸の魅力を高める公演の定期的な開催。 ・ 市民への幅広い分野の芸術文化の鑑賞機会の提供。 ・ 特に、文化ホールならではの大型作品等の鑑賞機会の提供。

支援 【施設提供】	市民の芸術文化活動の支援として、場の提供を行い、芸術文化の基幹施設として市民の文化活動が促進・発展するための支援を積極的に行っていく。 ・ 市民の芸術文化活動の場（日常/発表）を広く提供し、市民の芸術文化活動の支援を行う。 ・ 施設利用者による鑑賞機会の提供を積極的に支援し、市民の鑑賞機会の充実につなげる。 ・ 次世代を含め芸術文化活動を行う層の支援を行う。
育成 【育成】	実演家及び様々な専門人材の育成を行い、地域における実演家・専門人材が抱える構造的課題解決を支援し、芸術文化活動の持続可能性を高めていく。 ・ 実演家や芸術文化を取り巻く様々な課題を認識し、その課題を解決できる職能の育成を行う。 ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団の活動を活かした事業の展開なども検討する。
交流・にぎわい創出 【国際交流/連携】	日常的に人が集う仕掛けとしての事業展開、活動がにじみ出るような外部空間を活用した事業展開、周辺地域との連携事業等を展開する。 ・ 神戸市の文化の中核拠点として、各区民ホールをはじめとする文化施設、近隣の民間ホールとの連携・協力。 ・ 複合施設内の他機能をはじめとし、地域の商業等と連携した地域の賑わいの創出。
情報発信・調査研究 【情報・調査研究】	活動全体を通じての発信力を強化していく ・ 芸術文化に関する情報の収集と提供を行い、アーカイブとして蓄積していく ・ 大学等と連携し、実践的な芸術文化に関する調査研究・技術開発・先端的企画の立案と実施に取り組む。
普及・啓発 【普及】	芸術文化に親しみ楽しむ層を広げていくための事業展開を目指す ・ 気軽に聴きに行けるコンサート、理解を助け深めるための講座などの実施。 ・ ワークショップなど芸術文化の楽しさや素晴らしさを体験できる参加・体験型事業の展開。 ・ 子どもたちに芸術文化の魅力や楽しさを体験する機会を提供する。 ・ 神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団による普及活動を検討する。（インリーチ・アウトリーチ）

３．管理運営の考え方

（１）　管理運営の基本方針

劇場、音楽堂等施設として高い専門性を持つ施設を、適切にかつ効果的に管理運営を行っていくため、以下の視点を持った管理運営を行います。

- まちづくりの視点：

  神戸の象徴となる三宮周辺地域において、駅前の利便性をさらに高め、にぎわいや活力を生み出し「まち」を楽しんでもらう仕掛けの一つとして、積極的に関与していきます。

  さらに、同エリアに立地する神戸国際会館こくさいホールとの役割分担を図りながら、再整備ビル内に整備するホールと本庁舎 2 号館に整備するホールを含め 4 つのホールが、互いに相乗効果を発揮し、まちのにぎわいにつながるよう運営を行っていきます。

- 複合施設としての視点

  複合施設内に整備する計画であり、それぞれに整備される機能との相乗効果の創出を図ります。また、複合施設であることから、ホールの視認性に配慮した外観デザインが求められるとともに、ホールまで誘因する仕掛けを工夫するなど、アクセシビリティの向上を図ることが必要になります。加えて、他の機能とのセキュリティの考え方や、ホールに必要な動線（来場者、関係者、搬入車両等）の確保など、使いやすいホールとするための十分な検討が必要となります。

- 一体的な運営

  新施設は、現施設と異なりホール機能を分散して整備する計画となっています。それぞれの機能がそれぞれの役割を着実に果たしていくと同時に、一体的な運営を行うことで、これまでと変わらない基幹施設としての機能も果たすことが可能となります。

- 長期的な視点

  芸術文化、まちづくり、いずれも短期的に効果が表れるものではないため、継続性をもって計画的に事業や管理運営を行っていく長期的な視点が求められます。また、本計画対象施設の運営は組織内の事業実現に閉じた意識ではなく、神戸の芸術文化の創造的発展に何が不足しているか、どこがボトルネックなのかをつねに意識し、実演家、実演家団体、専門人材、行政、研究機関等と連携し、協働する仕組みをリードすることが求められます。

  また、施設や設備の維持管理等に関しても、長期的に安定して安全に施設を利用してもらえるように、予防保全の考えで計画的に行うことが望まれます。

- 芸術文化を支える専門性としての視点

  神戸市の芸術文化を支える基幹施設として、積極的な事業展開、芸術文化活動者への支援、高度な設備等への対応など、それぞれの専門性が不可避になります。

- 芸術文化の基幹施設としての視点

  神戸国際会館こくさいホール、神戸新聞松方ホール、各区民ホールなど市内の他の文化施設との役割分担や協働・連携を図るなど、神戸市の基幹施設として芸術文化活動全体を見据えた運営が求められます。

- クリエイティブの視点

  これからの新しい神戸市の芸術文化を生み出していくため、芸術文化の創造活動に柔軟に対応できる管理運営が必要です。インバウンドに対応するためには国際的水準で作品の創造に取り組む姿勢が求められます。

（２）　組織体制の基本方針

新・神戸文化ホールは、神戸市の芸術文化の基幹施設として、その機能の最大効果を発揮できる組織体制となるよう計画していきます。

（３）　収支計画の考え方

新施設の運営に当たっては、神戸、三宮周辺地域のまちづくりに寄与し、都市イメージの向上を図るための施設に対して、文化を活かしたまちづくりへの文化的投資として、神戸市の経費負担が必要となります。

ただし、継続性をもって事業や活動を安定的に行うために、使用料収入や事業による収入割合を高めることに努めるとともに、様々な収入確保の可能性について検討し、市の負担を押さえていくことを検討していきます。

【劇場、音楽堂等で想定される収支項目】

■収　入

- 使用料収入
- 事業収入（入場料、事業参加費、事業への助成金、協賛金など）
- その他（自動販売機、公衆電話など目的外利用等による収入）
- 市からの収入（指定管理者制度導入の場合は指定管理料）

■支　出

- 事業費
- 人件費
- 維持管理費

現在、全国各地の劇場、音楽堂等では、多方面からの収入を確保することで、安定的な管理運営を行うことを目指し、設置自治体だけに寄らない収入確保の方策が検討されています。

【収入確保の事例】

- 賛助会員制度
- 寄付制度
- 「ふるさと納税」の特定目的での活用
- ネーミングライツ（建物全体、各ホール、練習室等）
- ネーミングライツ（客席椅子、階段のステップ等）など

４．施設計画

（１）　基本性能の整理

新･神戸文化ホールの整備と中央区の新たな文化施設のホール機能の整備を同時に進めることで効率的・効果的な文化施設の整備を進めていきます。

バスターミナル内に大ホールと中央区の新たな文化施設のホール機能を整備することで、国際コンクールや全国大会等にも対応できるようにします。

それぞれ整備する施設としては、以下のような機能を想定します。

１）新・神戸文化ホールとして整備する機能

①大ホール機能

・客席数 1,500 席以上
・プロセニアム形式を基本とする舞台
・奈落（床機構設備については別途検討）
・可動型音響反射板を備え、生音を活かした音楽利用から舞台芸術、集会利用にも対応
・前舞台としても活用できるオーケストラピット
・多層バルコニー客席

② 中ホール機能

・客席数 700 席～900 席程度
・音楽専用ホール
・多層バルコニー客席

２）中央区の新たな文化施設として整備するホール機能

・客席数 500 席程度
・プロセニアム形式を基本とする舞台
・奈落（床機構設備については別途検討）
・可動型音響反射板を備え、生音を活かした音楽利用から舞台芸術、集会利用にも対応

３）ホールに共通した楽屋機能

・出演者がリラックスできるような空間
・ホールとの導線

４）その他に新・神戸文化ホールとして整備が求められる機能

① 創造支援機能

・リハーサル室、練習室の充実及び各ホール等と連携した柔軟な運用
・先進事例を踏まえ、リハーサル室、練習室のうち、必要に応じて小規模公演などが行える仕様を検討する

・リハーサル室、練習室などの活動を支える諸室（楽器庫、譜面庫、大道具製作室、衣裳室など）
・創造支援活動を支える専門スタッフの控室、打合せ室、更衣室など
・自主事業の創造に優先的に利用できる大型練習室の確保

② 交流機能
・情報ラウンジ（併設予定の図書館との連携も検討）
・飲食ラウンジ
・交流ロビー・ホワイエ　など

③ 管理機能
・事務室、応接室、打合せ室、倉庫等
・警備員室
・機械室　など

（２）　主たる機能諸室の検討・整理

新･神戸文化ホールに整備する基本的機能については､以下の点を中心に検討します。

① 大ホール機能

大ホールは、現・神戸文化ホール大ホールが担ってきた機能を基本的に継承するとともに、これからの新・神戸文化ホールに求められる役割を果たすことを目指します。

また、兵庫県立文化センターKOBELCO大ホール(2,001席)や神戸国際会館こくさいホール（2,112席）などとの役割分担にも配慮しつつ、劇場規模及び機能を整備していきます。

その上で、以下の点を中心に検討します。

《客席》
・客席数：1,500席以上
・バルコニー客席の検討
・来場者や出演者に分かりやすい各種導線の確保
・バリアフリー、ユニバーサルデザイン等への配慮
・客席の配置、椅子の構造、オーケストラピットの配置
・残響時間等、音響について
・内装デザイン

《舞台》
・プロセニアム開口幅
・舞台の大きさ
・舞台機構、舞台照明・舞台音響設備の操作について
・搬入導線について

・奈落について

《舞台技術諸室》
・調光操作室、音響調整室（アンプ室）、投影室、投光室などの設置について
・舞台音響設備備品庫、舞台照明設備備品庫、映像施設備品庫などの設置について

《舞台裏諸室》
・舞台技術スタッフ控室、楽器庫、その他備品庫（舞台照明、舞台音響、大道具他）及び、ピアノ庫や備品を格納するための倉庫等の設置について

《楽屋》
・楽屋の規模や配置、部屋数、設備について
・搬入導線について

《ホワイエ》
・規模、構造について
・飲食スペースの設置について
・トイレについて
・他施設とのつながりについて

《搬入口》
・搬入用エレベーター等の規模や仕様について

② 中ホール機能

中ホールは、現・神戸文化ホールには備えられていなかった機能としてクラシック音楽の生音の響きを活かせる特徴ある音楽専用ホールとして整備します。さらにこのホールは、神戸市室内管弦楽団や神戸市混声合唱団がレジデントするホールとして、これからの神戸の音楽文化振興及び関西地区の音楽芸術拠点として機能していくことを目指します。

また、先行して整備されている兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール（417席）や神戸新聞社松方ホール(706 席)などとの役割分担も考慮しつつ、以下の点を中心に検討します。

《客席》
・客席数：700～900 席程度
・バルコニー客席の検討
・各種導線の確保
・バリアフリー、ユニバーサルデザイン等への配慮

・舞台及び客席の配置、椅子の構造について
・内装デザインについて

《舞台》
・舞台の大きさ
・搬入導線について
・舞台照明や反射板等の配置について

《舞台技術諸室》
・調光操作室、音響調整室（アンプ室）、投影室、投光室などの設置について
・舞台音響設備備品庫、舞台照明設備備品庫、映像施設備品庫などの設置について

《舞台裏諸室》
・舞台技術スタッフ控室、楽器庫、その他備品庫（舞台照明、舞台音響、大道具他）及びピアノ庫や備品を収納するための倉庫等の設置について

《楽屋》
・楽屋の規模や配置、部屋数、設備等について
・搬入導線について

《ホワイエ》
・規模、構造について
・飲食スペースの設置について
・トイレについて
・他施設とのつながりについて

《搬入口》
・搬入用エレベーター等の規模や仕様について

③ 中央区の新たな文化施設として整備するホール機能
中央区の新たな文化施設として整備するホールは、多目的とし、様々なジャンルの文化活動の発表の場として幅広いニーズに対応できるようにします。
新・神戸文化ホールの大ホール機能と一体的な運用を行うことで、効果的・効率的な運用が期待されます。
その上で、以下の点を中心に検討します。
《客席》
・客席数：500 席程度

・バルコニー客席の検討
・大ホールとの導線など各種導線の確保
・バリアフリー、ユニバーサルデザイン等への配慮
・客席の配置、椅子の構造について
・内装デザインについて

《舞台》
・舞台の大きさについて
・搬入導線について
・舞台照明や反射板等の配置について

《舞台技術諸室》
・調光操作室、音響調整室（アンプ室）、投影室、投光室などの設置について
・舞台音響設備備品庫、舞台照明設備備品庫、映像施設備品庫などの設置について

《舞台裏諸室》
・舞台技術スタッフ控室、楽器庫、その他備品庫（舞台照明、舞台音響、大道具他）及びピアノ庫や備品を収納するための倉庫等の設置について

《楽屋》
・楽屋の規模や配置、部屋数、設備等について
・搬入導線について

《ホワイエ》
・規模、構造について
・飲食スペースの設置について
・トイレについて
・他施設とのつながりについて

《搬入口》
・搬入用エレベーター等の規模や仕様について

④ 創造支援機能

創造支援機能として新・神戸文化ホールが担う活動や事業を支える基盤機能を整備します。具体的な諸室としては、リハーサル室や練習室、スタジオなど本番前のウォーミングアップから日常的な練習、そして舞台芸術作品や音楽芸術作品などを創造するための必要な諸室を整備します。先行事例等を参考に、規模の大きなリハー

サル室は、練習や創造活動だけでなく、単独の興行場（有料の公演を行う場）として利用されることも検討します。
さらに、リハーサル室、練習室などでの活動を支える楽器庫、大道具製作室、倉庫などの整備を検討します。
さらに、そこでの活動や事業を支える諸室として舞台技術者及び制作者などの控室として専門スタッフ室、練習利用する方々のための更衣室・シャワー室、そして打合せ室、さらに創造支援諸室を利用する市民が交流できる情報ラウンジ（飲食可）などの整備を検討します。

《リハーサル室》
・規模、配置、部屋数、設備について

⑤ 交流機能
新・神戸文化ホールの主入口になるのが、共通ロビーです。新・神戸文化ホールを利用する多くの方々が、主入口を介して共通ロビーへ入ります。
この共通ロビー内には以下のような機能の整備を検討します。
・情報ラウンジ
・飲食ラウンジ
・交流ロビー・ホワイエ　など

⑥ 管理機能
管理機能としては、以下のような各機能諸室の整備を検討します。
・館長室、事務室、応接室、打合せ室、休憩室、更衣室、給湯室、倉庫等
・託児スペース
・警備員室
・清掃作業員室
・機械室　など

（３）　ゾーニングの考え方
ゾーニングについては、以下の二地区に機能諸室を適宜検討していきます。
・三ノ宮駅前地区
・市役所新２号館内

（４）　留意事項

５．整備手法

６．整備スケジュールの整理

（１）　整備予定地

整備予定地の概要を記載します。 【記載する項目例】 所在地／敷地面積／用途地域／建蔽率／容積率／防火地域　等

（２）　整備スケジュールの整理

７．今後の検討課題

整備に向けて、今後検討が必要な課題を整理します。 【例】 ● 現・神戸文化ホールからの継続性の確保 ● 3 つのホールを連携運用できる体制・制度の検討 ● 事業内容・管理運営の検討 ● 市内他施設との連携 ● 整備推進体制